

1 研究委嘱・研究指定の目的

- (1) 教育の不易な課題、時代の要請による課題、越谷市の課題を解決するため、市内小中学校に研究を委嘱及び指定する。
- (2) 委嘱校及び指定校の研究成果を様々な方法で市内小中学校に広め、越谷教育の質の向上を図る。
- (3) 前年度までに積み上げられた委嘱校及び指定校の研究成果を基盤として、新たな研究委嘱校及び指定校が研究を推進し、本市の教育の振興・発展に資するものとなるよう努める。

2 変更理由

- (1) 昨年度、小中一貫教育研究を15の中学校区に15年間かけて委嘱することを案内したが、すでに各学校において小中連携及び一貫教育の取り組みは喫緊の課題として認識されており、市内の先行実践においてもすでに取組の成果が出ている。このことから、中核市となる平成27年度を一つのきっかけとして市内全小中学校において小中一貫教育の具体的な研究に着手し、5年間を研究期間として各ブロックにおいて研究計画を立て、成果を検証することにより小中一貫教育の着実な推進を図ることが、本市の教育振興に大きく資するものと考えられる。
- (2) 文部科学省においては、本年8月に小中一貫教育特別部会が設置されて審議が進められている。また県教育委員会では本年2月に小中一貫教育推進ガイドを作成し、各校に配付されたところである。このような動きの中で、本市における小中一貫教育も目に見える形で、一層の取組が求められているといえる。

3 変更点

	新 規	昨年度の説明内容
1 ★研究指定 (時代の要請による課題、越谷市の課題)	① 小中一貫教育 全ての学校が(組合せは別紙1)、1中学校区において小中連携により、「ドリームプラン 夢に向かって輝く子どもの育成」を推進する。学力向上と不登校減少に取り組み、児童生徒の自己肯定感を醸成する。 ※毎年指定 成果指標 ア 学習状況調査等の変化 イ 不登校児童生徒数の減少 ウ 児童生徒の自己肯定感醸成率	
2 研究委嘱1 ローテーションによる研究委嘱	① 小中一貫「学力向上」 研究指定の1中学校区を委嘱し、小中連携して新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る学力向上のモデルプランを	① 小中一貫「学力向上」 1中学校区を委嘱し、小中連携して新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る学力向上のモデルプランを提供する。

	授業公開を基本とした発表会で提供する。(発表ローテ：別紙2) ※発表委嘱は単年度 成果指標 ア 学習状況調査等の変化 イ 不登校児童生徒数の減少 ウ 児童生徒の自己肯定感醸成率 ② 体力向上 ※2年間委嘱(中間・本発) ③道徳教育推進校 ※2年間委嘱 (授業発表・実践報告・調査報告)	※2年間委嘱(中間・本発) ② 体力向上 ※2年間委嘱(中間・本発) ③道徳教育推進校 ※2年間委嘱 (授業発表・実践報告・調査報告)
3 研究委嘱2 希望による研究委嘱	① 小中一貫(授業発表、実践発表) 1 中学校区を委嘱し、当該小中学校における課題を、小中連携により解決する実践的な取組を進め、その取組を提供する。 ※ローテーションによる発表年度以外で、発表等を希望する場合に委嘱する。 成果指標 ア 学習状況調査等の変化 イ 不登校児童生徒数の減少 ウ 児童生徒の自己肯定感醸成率 ② は中止	① 小中一貫 1 中学校区を委嘱し、当該小中学校における課題を、小中連携により解決する実践的な取組を進め、その取組のノウハウを提供する。 ② 学習指導(単独校)
研究指定 (時代の要請による課題、越谷市の課題)	①、②、③とも中止 ※当然研究には取り入れられる視点であるため、全校一斉の研究指定「小中一貫教育」の取組内容に入ると考える。 平成26・27年度研究指定(①言語活動 ②ICT ③学校応援団)を受けている学校については、平成27年度は「小中一貫教育」の研究指定の取組内容の一部とすることをもって代える。	① 言語活動の充実 ② ICTを活用した授業づくり ③ 学校応援団推進

2の授業公開を基本とする発表会では、中学校を会場とすることを基本とする。

越谷市小中一貫教育実施要項

1 ブロック地区

市内の1つの中学校区を小中一貫教育ブロック地区として、15ブロック地区で研究を推進する。

2 方針

ブロック地区においては、本研究の趣旨に基づき、同一中学校区の小中一貫教育に係る目指す児童生徒像、重点目標を設定、共有しながら、児童生徒の指導を進めていくものとする。

その際、次の(1)に示す必須メニューを全てのブロック地区において実施する。また、(2)に示す選択メニューの中から、一つ以上を選択して、実施するものとする。

(1) 必須メニュー

- ア 「全国学力・学習状況調査」結果や「埼玉県学力・学習状況等調査」結果を分析・活用することにより、児童生徒の学力の実態把握を行う。
- イ 1教科以上で単元配当表から小学校と中学校の接続や連続性、学年相互のつながりや発達の段階を意識した重要課題を設定し、方針、方策をたてて実施する。
- ウ 「越谷市 小中一貫教育アチーブメントリスト」の項目全てを実施する。
- エ 「越谷市小中一貫教育 指標一覧」の目標値を意識し、指導を工夫する。
- オ 「言語活動の充実」「ICTを活用した授業づくり」踏まえた授業を実施する。

(2) 選択メニュー

- ア 「越谷市 小中一貫教育アチーブメントリスト」にブロック内で小中一貫教育をより一層推進するためのオリジナル項目を設定し、実施する。
- イ 小中学校教員によるティームティーチング
- ウ 小中学校児童生徒の合同授業
- エ PTAなど学校を支える組織の交流・共同活動

3 実施期間

平成27年4月上旬より平成32年3月末日までの5年間とする。

4 運営及び研究推進体制

- (1) ブロック地区において、5年間小中一貫教育推進に関する運営委員会等を組織し、小学校、中学校が一体となって、計画・実施・検証・改善及び運営にあたる。
- (2) 越谷市教育委員会は、ブロック地区の運営に関し、必要な指導助言を行うことができる。
- (3) ブロック地区においては、小学校、中学校が一体となって研究推進を図るものとする。研究推進にあたってブロック地区は、越谷市教育委員会指導主事の派遣等をうけることができる。

5 小中一貫教育推進研究委員会

- (1) 越谷市教育委員会は、ブロック地区における研究をサポートすることや、ブロック地区での取組の成果を他のブロックで再構築することを目的に、小中一貫教育推進研究委員会（以下「推進委員会」という）を開催する。
- (2) ブロック地区は、推進委員会において、研究の進捗状況について報告するものとする。

6 研究計画及び研究成果の報告

- (1) ブロック地区は、同一中学校区の小学校、中学校の小中一貫教育の研究計画を作成し、その電子データもあわせて、越谷市教育委員会に4月末日までに提出するものとする。（様式は別途定める）
- (2) ブロック地区は、該当する小中一貫教育「学力向上」研究委嘱年度において、授業公開をもって研究成果を市内に発表する。（統一発表日開催）
- (3) ブロック地区は、同一中学校区の小学校、中学校の小中一貫教育の研究実績をまとめ報告書を作成し、その電子データもあわせて、越谷市教育委員会に2月末日までに提出するものとする。（様式は別途定める）

7 その他

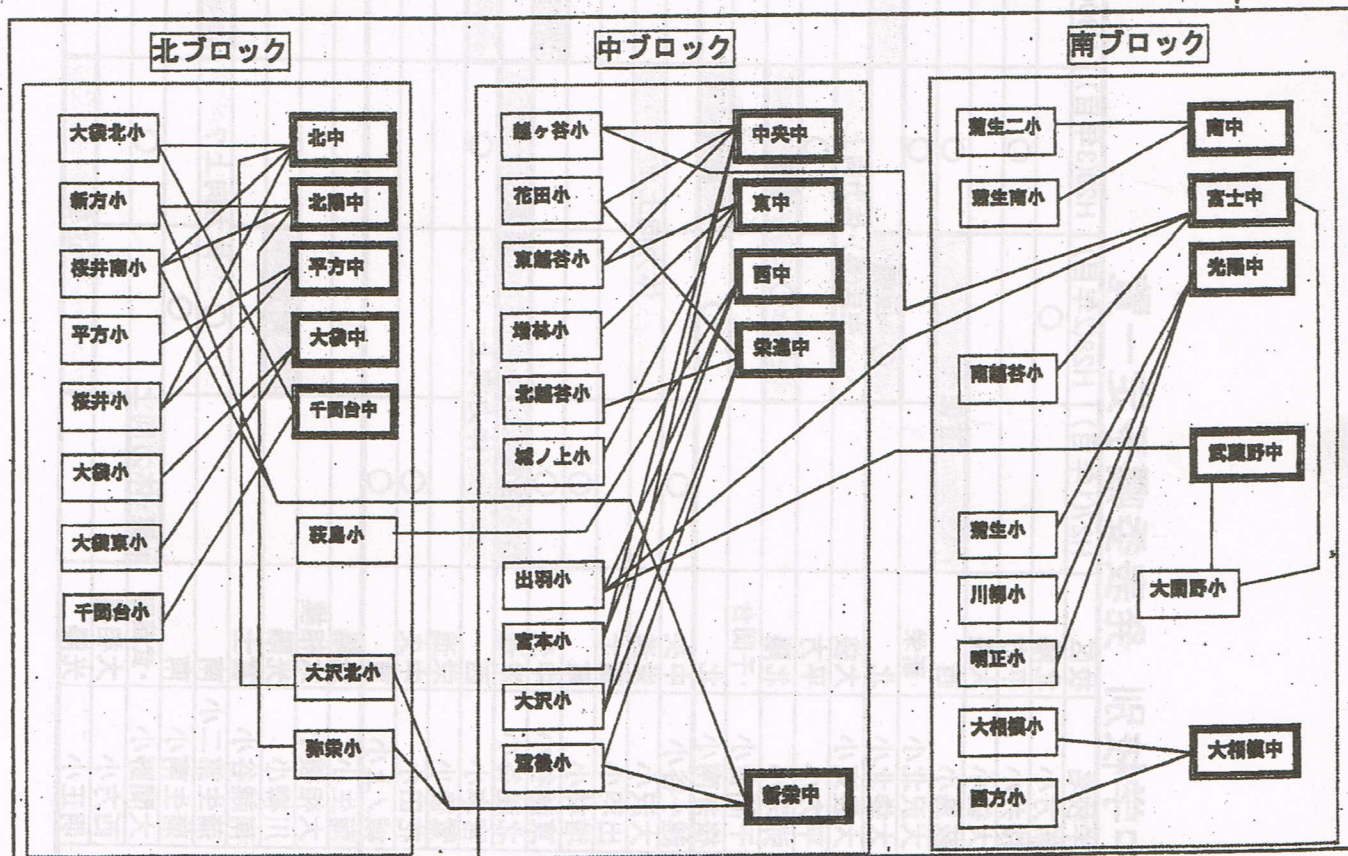
- (1) この要項に定める事項のほか、研究推進に必要な事項は越谷市教育委員会指導課長及び教育センター所長が協議のうえ別に定める。
- (2) この要項は、平成27年4月1日から施行する。

越谷市 小中一貫教育アチーブメントリスト

		小中取組項目20+α	H27 1年 目	H28 2年 目	H29 3年 目	H30 4年 目	H31 5年 目
共通 認識	1	共通する目指す児童生徒像を設定する					
	2	合同研修組織を設置する					
	3	共通の生活のきまりを策定する					
	4	共通の学習のきまりを策定する					
共通 行動	5	共通の生活のきまりを実施、検証する					
	6	共通の学習のきまりを実施、検証する					
	7	合同あいさつ運動を年3回以上実施する					
	8	合同防災訓練(含 引き取り訓練)を年1回以上実施する					
	9	合同研修会を年2回以上実施する					
	10	重要課題単元を設定し、指導・検証・改善を行う					
	11	問題解決タイム(話し合い)を教科毎の年間指導計画に示す					
	12	ノート指導の9年間の方針と形式を教科毎に示す					
教員 交流	13	相互学校訪問を年2回以上全職員が実施する					
	14	合同で生徒指導・教育相談部会を年2回以上実施する					
	15	合同で教科部会を年2回以上実施する					
	16	中学校教師による小学校への出前研修会を年1回以上実施する					
児童 生徒 交流	17	生徒会役員が小学校を訪問し学校説明を行う					
	18	児童生徒の作品交流をを行う					
	19	部活動交流を年2回以上実施する					
	20	小学校サマースクール(勉強会)へ中学生ボランティアを派遣する					
ブロック オリジナル	21						
	22						
	23						
	24						
	25						

小中一貫教育ブロック地区 H26年度担当指導主事一覧

No	中学校	チーフ担当	小1	学校担当	小2	学校担当	小3	学校担当
1	中央中	原田	花田小	萩原	越ヶ谷小	鈴木	東越谷小	木田
2	東中	島田	城ノ上小	松本	増林小	菊池		
3	西中	松村	荻島小	梨本	宮本小	幡谷		
4	南中	萩原	蒲生二小	沖田	蒲生南小	沖田		
5	北中	田嶋	大袋北小	福田	桜井南小	木田		
6	富士中	幡谷	南越谷小	上野	出羽小	柳田		
7	北陽中	梨本	弥栄小	古橋	新方小	長谷川		
8	栄進中	松本	鷺後小	田嶋	大沢小	松本	北越谷小	上野
9	光陽中	上野	川柳小	上野	蒲生小	柳田	明正小	長谷川
10	平方中	柳田	平方小	長谷川	桜井小	梨本		
11	武蔵野中	長谷川	大間野小	梨本				
12	大袋中	福田	大袋東小	幡谷	大袋小	田嶋		
13	新栄中	古橋	大沢北小	福田				
14	大相模中	鈴木	西方小	古橋	大相模小	鈴木		
15	千間台中	木田	千間台小	松本				



小中一貫「学力向上」発表年度予定一覧

別紙

※○が該当年度

ブロック	学校名	校区	H27(1年目)	H28(2年目)	H29(3年目)	H30(4年目)	H31(5年目)
小学校北ブロック1	新方小	北陽		○			
	桜井小	平方			○		
	大袋小	大袋		体力向上?		○	
	荻島小	西	道徳		○		
	大沢北小	・新栄			○		
	大袋北小	北		○ 保健		道徳	
	大袋東小	大袋				○	
	平方小	平方			○		
	弥栄小	北陽		○ 道徳			
	千間台小	・千間台					○
	桜井南小	北		○	給食		
小学校中ブロック10	越ヶ谷小	中央	○				
	大沢小	栄進				○	
	出羽小	富士	道徳				○
	増林小	東	○				
	東越谷小	中央	○			給食	
	北越谷小	栄進	給食	道徳		○	
	宮本小	西	体力向上		○	道徳	
	鷺後小	栄進				○	
	花田小	中央	○				
	城ノ上小	東	○				
小学校南ブロック9	蒲生小	光陽	道徳			○	
	大相模小	大相模					○
	川柳小	光陽		給食		○	
	南越谷小	富士					○
	蒲生第二小	南		○		道徳	
	蒲生南小	南		○			
	大間野小	・武蔵野	保健・体力向上		○		
	西方小	大相模					○
	明正小	光陽		道徳		○	

No.	学校名	小学校数	H27(1年目)	H28(2年目)	H29(3年目)	H30(4年目)	H31(5年目)
1	中央中	3	○		進路	緑化	
2	東中	2	○				緑化・進路
3	西中	2			○		
4	南中	2		○			
5	北中	2		○			
6	富士中	2		道徳			○
7	北陽中	2	給食・体力	○ 道徳			
8	栄進中	3	道徳	体力向上		○	
9	光陽中	3				○ 体力向上	
10	平方中	2	道徳		○		
11	武蔵野中	・1			○	道徳	
12	大袋中	2				○ 給食・道徳	
13	新栄中	・1	緑化	給食	○		
14	大相模中	2		緑・進路	給食		○
15	千間台中	・1	進路		緑化		○

越谷市小中一貫教育ステップアッププラン

H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
越谷の 子ども を 9年間 で 育てる わかる しる	全 45 校 小中一貫教育 研究指定 □内はその年度の 発表ブロック				富士中 出羽小 南越谷小	人的 配置で
					大相模中 大相模小 西方小	家庭・地域 との連携で
					千間台中 千間台小	指導方法で 指導計画 作成で
					授業で (参観、合同、IT) 単元で (ある教科、 ある単元)	
					交流活動で 生活規律・学習規律で	
	中央中・越谷小 東越谷小・花田小	北中・大袋北小 桜井南小	西中・荻島小 宮本小	栄進中・大沢小 北越谷小・高橋小	光陽中・蒲生小 川柳小・明正小	大相模中 大相模小 西方小
	東中・増林小 城ノ上小	南中・蒲生二小 蒲生南小	平方中・桜井小 平方小	武蔵野中・ 大間野小	天袋中・天袋小 大袋東小	千間台中 千間台小
		北陽中・新方小 弥栄小	新栄中・ 大沢北小	小と中の文化の違いとは何でしょうか？ 互いのよさは何でしょうか？ 知所もあるはずです。 違いがわかることが大切です。		
				小と中の文化の違いとは何でしょうか？ 互いのよさは何でしょうか？ 知所もあるはずです。 違いがわかることが大切です。		
H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32

学力の向上

自己肯定感の
醸成

不登校の減少

越谷市小中一貫教育 指標一覧

学力向上

指標	指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)
全国学力・学習状況調査において小学校6年生及び中学校3年生で全国平均正答率(公立)を上回る正答率となった調査種別の数	全国学力・学習状況調査において公立の全国平均正答率を超えた国語A、国語Bなどの調査種別の数。 全国平均正答率との比較において本市の学力を測るため、この指標を選定した。	本市の平成26年度の正答率は、小学校6年生で全国平均を算数Aのみ下回り、中学校3年生では全国平均をすべて下回る状況である。学力向上へ向けた取組を推進することで、すべての調査種別で上昇させることを目標とした。	小学校6年生 3 中学校3年生 0	小学校6年生 すべての調査種別の数 中学校3年生 すべての調査種別の数
埼玉県学力・学習状況調査において実施学年で県平均正答率(公立)を上回る正答率となった調査種別の数	埼玉県学力・学習状況調査において公立の県平均正答率を超えた国語などの調査種別の数。 県平均正答率との比較において本市の学力を測るため、この指標を選定した。	本調査は平成27年度より新たに始まるもののため、現状は未定である。学力向上へ向けた取組を推進することで、すべての調査種別で上昇させることを目標とした。	小学校4年生 — 小学校5年生 — 小学校6年生 — 中学校1年生 — 中学校2年生 — 中学校3年生 —	小学校4年生 すべての調査種別の数 小学校5年生 すべての調査種別の数 小学校6年生 すべての調査種別の数 中学校1年生 すべての調査種別の数 中学校2年生 すべての調査種別の数 中学校3年生 すべての調査種別の数

不登校減少

指標	指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 31 年度)
不登校（年間 30 日以上）児童生徒数	1 年度内に 30 日以上欠席した市内小・中学校の児童生徒数（病気や経済的理由による者を除く。） 不登校は本人の心の問題だけでなく、学力や社会性を育む機会を失い、本人の社会的自立に関わる重要な課題であることから、この指標を選定した。	不登校の着実な解消を図るため、小学校における不登校児童数を毎年 0.02% 以上減少させることを目指して、この目標値を設定。	小学校 32 人 中学校 193 人	小学校 11 人以下 中学校 180 人以下
不登校児童生徒の割合	市内小・中学校の児童生徒のうち、1 年度内に 30 日以上欠席した児童生徒（病気や経済的理由による者を除く。）の割合。 全児童生徒数の減少傾向を考慮すると、人数の比較ではなく、割合で指標を示す方がより効果を検証できることから、この指標を選定した。	平成 25 年度の不登校児童生徒の割合における、全国で上位 3 位の数値を目指して、この目標値を設定した。	小学校 0.18% 中学校 2.14%	小学校 0.06% 以下 中学校 2.00% 以下

自己肯定感醸成

指標	指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)
将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえ、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。 越谷市小中一貫教育推進することが、将来の夢や目標を描ける児童生徒が増えることにつながることから、この指標を選定した。	越谷市小中一貫教育を推進することにより、全国トップレベルの水準になることを目指して、この目標値を設定した。	小学校6年生 89.3% 中学校3年生 72.0%	小学校6年生 95.0%以上 中学校3年生 80.0%以上